



クボタ通信 第132期中間

2021.1.1-6.30

P.5-6 特集

福島のために

～福島県双葉町
減容化施設での奮闘～



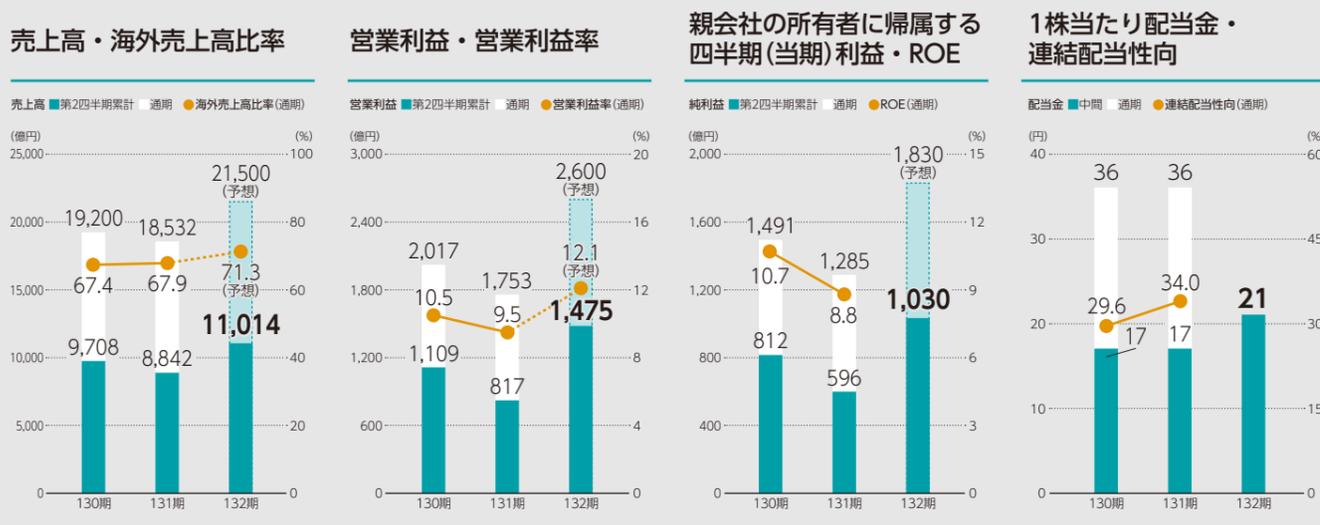
豊かな社会と自然の循環にコミットする “命を支えるプラットフォーマー”を めざします。

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
クボタ通信(第132期中間)をお届けするに当たり、ご挨拶を申し上げます。
当第2四半期累計(2021年1月1日~2021年6月30日)の業績につきましては、
下記のとおりとなりました。
株主の皆様におかれましては、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い
申し上げます。

株式会社クボタ 代表取締役社長
北尾 裕一

The 132nd First Half Digest

売上高 11,014 億円 (前年同期比 +24.6%) 国内：機械部門は増収。水・環境部門、 その他部門は減収。 海外：農業機械や建設機械が大きく伸 長したため、機械部門は大幅増 収。水・環境部門は減収。	営業利益 1,475 億円 (前年同期比 +80.7%) 固定費の増加や原材料価格の上昇な どの減益要因はあるものの、国内外 での大幅な増収や為替の改善など により増益。	親会社の所有者に帰属する 四半期利益 1,030 億円 (前年同期比 +72.8%) 営業利益の増加により増益。
--	---	---

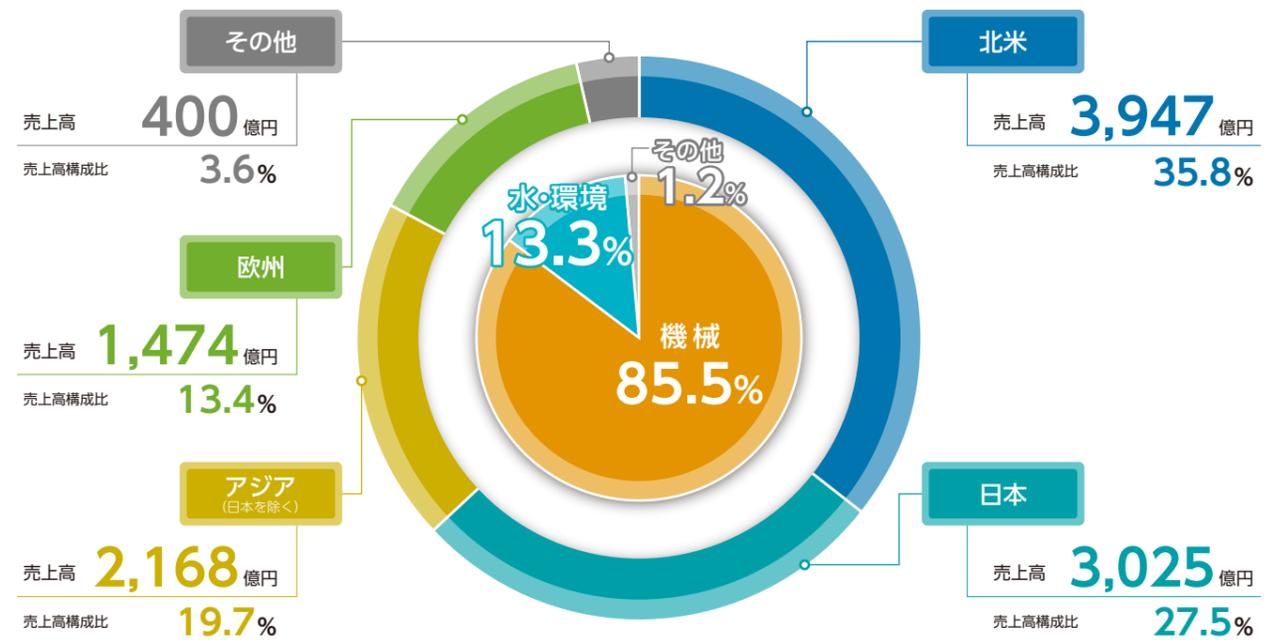


第132期通期業績予想	売上高 21,500億円	営業利益 2,600億円	親会社の所有者に 帰属する当期利益 1,830億円
--------------------	---------------------	---------------------	--------------------------------------

事業の概況 OVERVIEW BY SEGMENT

売上高(第132期第2四半期累計)

11,014億円



機械

農業機械、農業関連商品、
エンジン、建設機械

売上高	前年同期比
9,413 億円	+30.9%

- 国内**：消費増税前の駆け込み需要の反動減からの回復や、経営継続補助金による需要の増加により農業機械や農業関連商品が伸長。
- 北米**：港湾の混雑や人手不足に伴う生産や出荷の遅れはあるものの、郊外移住などに伴う旺盛な需要を背景にトラクタや建設機械が大幅に増加したほか、エンジンも回復。
- 欧州**：前年の新型コロナウイルス感染拡大に伴う販売低迷からの回復により、建設機械、トラクタ、エンジンが増加。
- アジア**：タイの農業機械が良好な天候や農産物価格の高値安定などにより大幅に増加したほか、中国、インド、フィリピンでも農業機械が好調に推移。

セグメント利益	前年同期比
1,439 億円	+65.1%

固定費の増加や原材料価格の上昇などの減益要因はあるものの、国内外での大幅な増収や、前年同期に出荷された製品に含まれる生産工場の損益が悪化していたことなどにより増益。

水・環境

パイプインフラ関連製品、
環境関連製品

売上高	前年同期比
1,466 億円	-2.5%

- 国内**：パイプインフラ関連製品は緊急事態宣言に伴う工期延長の影響などによりダクタイル鉄管や工事事業が減少。環境関連製品は排水ポンプ車の増販によりポンプが大幅な増加。
- 海外**：素形材などが減少。

セグメント利益	前年同期比
132 億円	+33.2%

プラント建設コストの改善などにより増益。

その他

各種サービス事業等

売上高	前年同期比
136 億円	-7.6%

セグメント利益	前年同期比
16 億円	+9.6%

1 足元で新型コロナウイルス変異株の感染が世界的に拡大しております。今後さらに状況が悪化した場合には、当社業績にも影響が出る可能性があります。現時点では想定が困難なため本業績予想には反映していません。

2030年にクボタがめざす姿

長期ビジョン「GMB2030」

豊かな社会と自然の循環にコミットする

“命を支えるプラットフォーム”

クボタは130年という長い年月を通じて、食料・水・環境に関わる社会課題の解決に取り組んできました。諸問題が複雑に絡み合う現代においても、人々の暮らしに欠かせない食料・水・環境の分野で、必要不可欠な存在“命を支えるプラットフォーム”をめざします。社会課題を解決し、持続可能な日々の暮らしを守るための、新たなソリューションへの取り組みの一例をご紹介します。

取り組み 1 持続可能な食料生産に向け、イノベーションを推進

取り巻く変化に対応しながら、持続可能な食料生産を実現するため、社外パートナーとともに農業分野のトータルソリューションの加速をめざします。

植物栽培装置や成長管理システムの開発を手掛けるプランテックス社

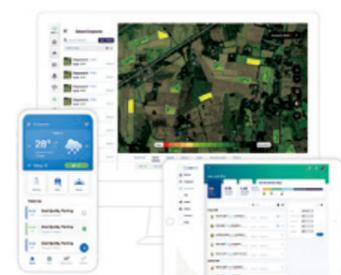
植物工場は、食料問題を解決するキーテクノロジーです。同社が先進的な技術を用いて開発している人工光型植物栽培装置は、気象などに左右されることなく、安定的で高い生産効率を実現しています。クボタが持つ、水や空気に関する技術とのシナジーによって、植物工場を新たな食料生産方法として発展させていきます。



プランテックス社が保有する栽培装置

アセアン農家向けの営農支援サービスを手掛けるListenField社

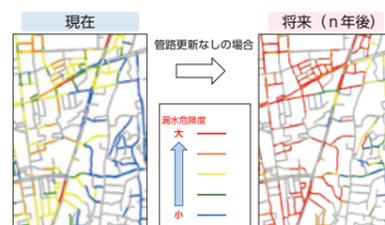
個人農家や農業法人向けに、スマートフォンなどで気象や土壌などのデータ閲覧、農家同士の情報交換ツールなど、農業経営に関わる幅広いサービスを同社のプラットフォーム上で提供しています。すでに同サービスは、タイ国内において多数のユーザーを獲得しています。タイは世界有数のコメ輸出量を誇る農業国ですが、地理的条件から干ばつや洪水など気象災害を受けやすい地域とされています。作物の植え付けや収穫作業の最適な時期などを農家に提案することで、作物収量の大幅な向上と薬剤や肥料などの最適化を実現する画期的なスマート農業技術を共同開発し、タイをはじめとする東南アジア諸国の農家に提供することをめざします。



ListenField社が提供する営農支援サービス

取り組み 2 漏水危険度の高い水道管路を見える化し、効率的な管路更新事業に貢献

東京大学との共同研究により、水道管として最も多く使用されているダクタイル鉄管の新しい老朽度評価方法を開発しました。埋設されている水道管路は点検や精度の高い診断が困難とされてきましたが、当社が長年蓄積してきた約6,000件のデータをもとに、AIを活用することにより、従来よりも高精度に老朽度を予測することが可能になります。現状～将来の漏水危険度マップを高精度に作成し、管路ごとの更新優先順位が提示されるため、水道管路のより効率的な管理が可能になりました。



漏水危険度マップ現在および将来の予測漏水件数を高精度に表示

取り組み 3 インドの住環境向上に貢献

インドの小型建設機械市場は、経済成長に伴うインフラ投資（道路、電力、上下水道等）の増加により拡大しており、今後も市場拡大が続く見通しです。

当社はこのたび、現地の販売会社であるクボタ農業機械インド株式会社に建設機械部門を新設し、販売・アフターサービス体制の強化を図ります。拡大が見込まれる小型建機市場において、市場やお客様に寄り添った対応をより一層強化していくことで、販売拡大をめざすと同時に、インドの経済成長の更なる発展に貢献してまいります。

関連資料

GMB2030・中期経営計画

<https://www.kubota.co.jp/ir/financial/resume/data/mp132.pdf>

詳細についてはURL、QRコードよりご覧いただけます。



新たに環境ビジョンを策定しました！

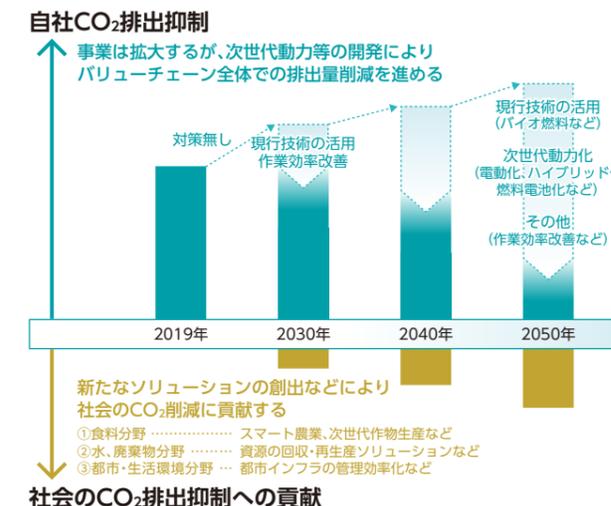
環境ビジョン ～2050年に向けて環境面からのありたい姿～

環境負荷ゼロに挑戦しながら、「食料・水・環境」分野で
カーボンニュートラルでレジリエントな社会の実現に貢献します。

クボタが取り組む カーボンニュートラルとは？

クボタは、カーボンニュートラルな社会の実現に向け、温室効果ガスの排出削減や省エネルギーの推進、製品の燃費改善や電動化などを進め、製品ライフサイクル全体におけるCO₂排出抑制を進めます。

同時に、製品やソリューションの提供を通じ、社会活動から発生するCO₂排出を抑制し、2050年CO₂排出実質ゼロに挑戦します。



電気炉への転換

鋳物製品を手掛ける恩加島事業センター（大阪市大正区）の生産ライン刷新に伴い、新たに電気炉を導入いたします。新ラインは、2023年12月末までに完工予定で、鋳物の生産能力は年3万6,000トンと、現状比20%高まる見通しです。石炭由来のコークスの燃焼によりCO₂を排出するキューボラ（溶解炉）から、電気炉へ転換することで、自社のCO₂排出量を削減し、脱炭素を進めてまいります。



鋳造設備の様子

2023年ハイブリッドエンジンの実用化 動力の脱炭素化をめざして

クボタは、農機向けなどの産業用ディーゼルエンジンのハイブリッドモデルを2023年を目処に実用化いたします。それにより、脱炭素を進めたい機械メーカーから農機や建機、フォークリフト向けの需要を見込むとともに、環境意識の高い欧州の市場にも対応していきます。また、今後は、電動・ハイブリッド化や燃料電池化など、動力の脱炭素化に向けた研究開発に挑戦し、CO₂の排出抑制に貢献していきます。



出力効率の高いマイクロハイブリッドエンジン



開発中の電動トラクタ

関連資料

環境ビジョン

<https://www.kubota.co.jp/sustainability/environment/vision/index.html>

統合報告書 (KUBOTA REPORT)

<https://www.kubota.co.jp/ir/financial/integrated/index.html>

詳細についてはURL、QRコードよりご覧いただけます。





福島のために

～福島県双葉町減容化施設での奮闘～

今年、東日本大震災から丸10年が経ちました。

被災地も、徐々に復興の兆しが見え始めており、活気を取り戻しつつあります。しかし、10年経った今でも福島県内の一部では、放射線量が高い影響で立ち入りが制限されている区域（帰還困難区域）もあり、震災前の風景とは様変わりしてしまいました。除染物や家屋の片付けごみ等の廃棄物が黒いフレコンバックに入れられ、農地や山林などにシートをかけた状態で仮置きされています。

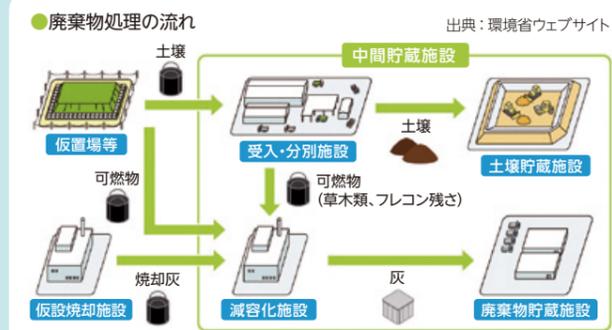
クボタグループのクボタ環境サービス（株）は、こういった廃棄物に関する諸問題の解決に貢献すべく、昨年より双葉町で焼却灰などの溶融処理に取り組んでいます。この事業は、各仮設焼却施設で発生した「放射性物質を含む灰」を集め、高温で溶融することで、放射性物質を分離・濃縮、減容化し最終処分容量を小さくすることを目的としています。

（発注者：環境省）



フレコンバックに入れ、仮置きされている廃棄物

地震発生直後の時間で止まったままの時計。未だ立ち入りが規制されている帰還困難区域で、町民の帰りを待っている



今回は、この溶融化施設で福島県復興の一助となるべく、フロントラインで働く、3人の社員のお話を紹介いたします。

減容化事業へ参画すると聞いて、最初どのよう に思われましたか？

放射線被ばくに対する恐れはもちろんありましたが、それよりも、福島の復興に貢献できるという想いと、私たちの溶融技術がふたたび社会に貢献できる機会がやってきたと誇らしい気持ちでした。この溶融技術が廃棄物の減容化に役立terるということは分かっていたが、今回のプロジェクトは絶対に失敗ができないうえ、大きなリスクを伴うため、社内でも反対意見が



多くありました。しかし、最後は私たちの熱意が皆に伝わったのだと思います。

クボタの溶融炉の特徴について教えてください。

クボタの溶融炉の一番の特徴は、回転式表面溶融炉ということです。クボタの溶融炉は、筒状の炉を回転させる独自の方式で、均一に安定的かつ効率的に処理対象物を供給し溶融処理することができます。灰だけでなく汚泥や可燃物など幅広い対象物に対応でき、性状の安定しない災害廃棄物等の処理にマッチしていると言えます。今回の受注に至った経緯は、この高度な技術と香川県豊島での不法投棄廃棄物処理の実績が高く評価された結果だと思っています。

建設から運用開始に至るまで、一番苦労したことは何ですか？

作業人員や資材の確保です。リスクの伴う事業ということで、業者の中にはこの地域での業務には従事できないと決めているところもありました。また、帰還困難区域に入るにしても、登録手続きに時間もかかります。さらには、東京オリンピックの関連工事と施工時期が重なったこともあり、人員や資材の確保には大変苦労しました。

加えて、受注から建設・竣工まで約2年という短工期だったため、急ピッチで作業を進めなければなりませんでした。

現在の稼働状況や双葉町の様子について教えてください。

2020年3月から稼働を開始し、継続的に処理を進めています。今回処理するものが放射性物質を含む廃棄物であることから、設備及び処理工程



処理を待つ、膨大な廃棄物

の自動化や密閉化を図るなど、これまでにない新たな試みが盛り込まれています。稼働当初はそれらの調整に手間取りましたが、処理を継続しながらも改善に向けて取り組んでいます。また、灰処理対象物それぞれに見合った副資材の調合やデータを集積しながら、日々試行錯誤を続けています。

双葉町の様子ですが、私たちが初めてここに来た時はまだ、多くの場所に放射性物質を含む廃棄物が山積みされていました。しかし、作業が進むにつれ、いままでは廃棄物などの仮置き場所だった土地に、ホテルや公園などが整備され始めてきています。昨年3月にはJR常磐線も全線開通し、改築された双葉駅の周辺は、居住区域



減容化された灰処理ばいじんが、廃棄物貯蔵施設へと運ばれていく様子

として整備され始め、来年から居住も始まる計画もあり、着実に進む復興を感じています。

今後の溶融炉の可能性について教えてください。

今後の溶融炉の活用方法については、大きく分けて2つあると考えています。

第一に福島では、焼却灰だけでなく放射性物質を含む除染土壌処理の問題もまだ残っています。最終処分量を少しでも減らす必要がある中、今後この溶融炉を除去土壌の減容化に活用できる可能性があると思います。

2つ目は、分離機としての役割です。クボタグループの長期ビジョンにもありますが、資源循環に役立てると考えています。廃棄物からレアメタルを回収したり、下水汚泥の中からリンを取り出して、肥料として再利用するなど、可能性は広がっていると思います。

今事業を通じて感じることなどがあれば教えてください。

私たちがめざすことは一つです。それは、一刻も早く、福島を人々が安心して暮らせる街にすることです。福島での事業は、雇用創出の一環ともなり、私たちの施設には、現在故郷の復興に役立ちたいと、県内外各所に避難していた方も働いてくれています。また、以前田畑だった場所で、現在は廃棄物の仮置き場として使用されている土地は、処理を進めることで、今後農業を再開することも可能となり、農業の復興にも繋がります。

福島は、地酒も美味しいですし、果物の生産地としても有名です。福島県で育てた農産物を全国の人々に届ける一助にもなればと思います。私たちクボタグループは、食料・水・環境の3つの事業領域を持つ企業として、今後も事業を通じて社会の課題解決に取り組んでいきたいと思っています。



以前は立ち入りが規制されていたが、廃棄物処理が進んだことで、右下の地域は規制が解除され、今ではホテルや事務所が建ち並んでいる



株主様向け イベントのご案内

当社は、株主の皆様にご理解を深めていただくことを目的に、株主様向けイベントを実施しております。

今回は、クボタのラグビーチームである“クボタスピアーズ”の選手との交流・体験会です。クボタスピアーズのホームグラウンドで、1日目はラグビー体験や懇談会、2日目は練習試合の観戦にご招待させていただく予定です。この機会に、ぜひご応募ください。

日程
2021年
11月12日(金)～13日(土)
※いずれか1日のみでも
ご参加いただけます。

場所
千葉県
船橋市
京葉工場
(予定)

応募締切日
2021年
9月30日(木)
24時申し込み分まで

※ご応募はWEBを通じてお願いいたします。はがき・電話では受付いたしかねますのでご了承ください。

クボタスピアーズ概要



クボタが運営する、ジャパンラグビートップリーグに所属のチームです。千葉県船橋市を本拠地とし、「強く、愛されるチーム」をめざし、日々練習や、地域の皆様との繋がりを深める活動を行っています。

2021年のリーグ戦では、3位の成績を収めました。

チーム名を、“クボタスピアーズ船橋・東京ベイ”に改め、新リーグ（JAPAN RUGBY LEAGUE ONE）でも上位をめざしていきます。

※ご応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。

※新型コロナウイルスの拡大状況によっては、日時・場所の変更、またはイベントを中止とさせていただく可能性もございます。その際はホームページでお知らせいたします。

ホームページにてご応募前の確認事項をご覧ください、ご応募ください。皆様のご応募を心よりお待ちしております。



スマートフォンでも
ご覧いただけます



ご応募はこちら

https://www.kubota.co.jp/ir/sh_info/personal/tour/21-02.html

クボタの事業の紹介など、FacebookやYouTubeで日々発信していますので、ぜひご覧ください。

Facebook >> <https://www.facebook.com/KubotaCorporation>

YouTubeチャンネル >> <https://www.youtube.com/user/TheKubotachannel>

配当金のお受け取りは、便利な口座振込をご活用ください。

お受け取りには、下記1～3の3つの方法がございます。

2または3でのお受け取りをご希望される場合は、お取引のある証券会社等にお問合わせください。

1 郵便局等でのお受け取り

「配当金領収証」を持参し、郵便局等で受け取る方法

2 証券口座でのお受け取り

各証券会社の証券口座で受け取る方法

3 銀行口座等でのお受け取り

ご指定の金融機関口座で受け取る方法
(個別銘柄ごとのご指定も可能です)



ご注意

お支払開始日から満3年を経過した配当金は、お受け取りができなくなりますので、お受け取り漏れのない口座振込を、ぜひご活用ください。

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月に開催

基準日 定時株主総会 毎年12月31日
期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年6月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関

三井住友信託銀行(株)
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先

〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行(株) 証券代行部
tel 0120-782-031(フリーダイヤル)
受付時間 9:00～17:00(土日休日を除く)

公告方法

当社ホームページに掲載

上場証券取引所

東京証券取引所

